

学力分析シート【学年：2年 教科：理科】

実施日：令和元年1月18日

実施テスト名【実力テスト】

作成者【小坂 亮太】

課題が大きいと考えられる問題（正答率が低い、県との差が大きい）

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
3(2)	炎を出して燃えて、水や二酸化炭素が発生するということから有機物と判断し、具体的に有機物を特定できるかどうかをみる。	11.8	13.6	まず始めに有機物であることの判断が十分にできておらず、知識の定着が不十分であった。また、有機物と無機物の分類についても、それぞれの定義を十分に踏まえて解答できていなかった。	○基礎的知識の習得のために、ドリル学習や小テストを実施する。また、その知識と具体現象とを関連させるために、実験や演示実験を通して、実感の伴った理解ができるよう取り組む。

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
5(2)	温度と状態変化についての知識をもとに、加熱後の様子をグラフに作成できるかどうかをみる。	12.5	13	問題文から物質の状態変化と時間の関係について見取ることができていないと考えられる。また、無回答の生徒も13.2%と大変高いことから、グラフをかく技能面が十分でないと考えられる。	○技能面の習得のために、実際にやる場面を積極的に作る。具体的には、パフォーマンステストを実施する。

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
5(4)	ロウの状態変化にともなう密度の変化について理解し、そのことをもとに質量と体積と関係づけて考えることができていくかをみる。	13.9	15.7	ロウの状態変化にともなう密度の変化について理解できていないと考える。また、そのことと密度の定義について関連づけることができていないと考えられる。	○できるだけ実際の現物に触れることで関連づけて理解ができるよう取り組む。また、知識を意図的に活用させる場面（特にまとめの場面）で設定する。

例

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
1四 (1)ア	「対象」 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	39.1	48.2	「対象」と書かなければならないところを「対称」や「対照」と間違える児童が多かった。算数科の「対称」と間違える児童が多い。同音異義語に課題がある。漢字の意味を考えながら漢字の習得が図られていないと考えられる。	○新出漢字の学習時には、同音異義語を指導する。 ○宿題の漢字練習においては、字形の練習だけでなく、熟語の練習も行う。(例)対称な図形をかく。 ○新出漢字の練習を学期の始めに実施し、反復練習を行う。